



演 題

短編映画『桑の実』の 試写会を通してみる曳山まつり

講 師

谷口 未央氏（映画監督）



講師プロフィール

1978年生まれ。2歳より小学校6年生まで滋賀県長浜市で育つ。2008年より上京し映画製作を学ぶ。2011年、主に長浜市で撮影した『仇討ち』が多くの映画祭で高い評価を得る。2012年、『矢田川のバツハ』（伊藤由美子原作/ショートストーリー）の監督公募に選出。2013年、『彦とベガ』の脚本が、「伊参スタジオ映画祭シナリオ大賞2013/中編の部大賞」を受賞し、2014年に自ら監督し映画化（川津祐介、原知佐子主演）。同作品は、「あいち国際女性映画祭2015/フィルム・コンペティション長編フィルム部門グランプリ《金のコノハズク賞》」に輝き、2016年夏より東京を皮切りに全国で劇場公開された。《『彦とベガ』ホームページ <http://hiko-vega.com>》現在、長浜曳山まつり映画『いぶきの祭り（仮題）』を準備中。

日 時

平成30年

10月13日（土）

19時満席のため 追加公演

16時～

（15時30分開場）

場 所

曳山博物館 伝承スタジオ

募集人数

100名

申し込み

電話もしくは FAX でお申し込みください。

TEL (0749) 65-3300 FAX (0749) 65-3440

※FAXの場合は《参加者氏名・住所・連絡先》をご記入ください

入場無料

短編映画「桑の実」あらすじ

時生（ときお・20歳）は大学を中退し、長浜の実家に戻り酒屋でバイトをしている。「長浜曳山まつり」に若衆（わかしゅう）として参加することになり、「裸参り」や「子ども狂言」の役者・渉太（しょうだい・7歳）の世話をするが、なかなか若衆としての自覚は芽生えない。そんな中、稽古終わりの渉太を自宅へ送ることになる。渉太の祖父・義郎（よしろう・70歳）は絹織物工場を営んでいて、その織機（しょつき）の音が、時生を幼き日の記憶へといざなう。それは、かつて養蚕業を営んでいた亡き祖父・時光（ときみつ・当時70歳）との“桑の実”にまつわる記憶だった……。 （2018年/37分/カラー/ビスタ/DVD上映）